

令和８年度第１回「静岡県デジタル人材育成協議会」議事録

日 時：令和８年９月１４日（月）１４：００から１６：００まで

場 所：別館８階第１会議室Ａ（オンライン併用）

出席者：別紙参照

１ 開会挨拶（山家産業革新局長）

２ 議事

（１） 委員長の選任について

「静岡県デジタル人材育成協議会」の設置及び運営に関する要綱（資料２）第４条第１項の規定に基づき、委員の互選により池田委員が委員長に選出された。

（２） 「静岡県デジタル人材確保・育成戦略（２０２５－２０２８）」概要説明

資料３により、同戦略の概要を説明した。

（３） 令和８年度の事業実施状況報告

資料４により、令和８年度の事業実施状況を担当課から報告した。また、資料５により、関連事業との連携について説明した。

（４） 令和９年度取組の方向性について

資料６により、令和９年度の施策展開の方向性について説明した。

【意見・質問】

阪 口 委 員：職業能力開発課で実施されている様々なデジタル講座の中で、県立工科短期大学を卒業し、ネットワークスペシャリスト等の資格を取得した方々は、主にどのようなところに就職しているか。

職業能力開発課：主に県内の中小企業のシステム開発会社に就職されている。

池田委員長：講座の受講者の属性や講座を経た後の効果・進路について、可能な範囲で情報収集することで、今後の検討の参考となる。

事 務 局：毎年SHIPで開催している、トップレベル人材育成講座（今年度名称：「SHIP AI Business Academy」）の受講者は、SHIPのコミュニティに参加いただき、新規事業開発や起業を目指す人もいる。個別の活躍状況は、今年度アンケートを実施しフォローアップ調査を実施予定。

池田委員長：SHIPの取組は他県に誇れるものであり、他の取組についても個人情報の問題に差し障りのない範囲で 静岡県への貢献度を評価して欲しい。

渡 邊 委 員：静岡県内の３か所ある工業技術研究所のDX関連活動と人材育成との連携状況

が資料に入っていないが、現状はどうか。場所を提供し、先生方が教師として来ていただくと聞いた取組は聞いている。

事務局：工業技術研究所は主に研究開発と技術指導を行い、企業ニーズに応じて幅広く支援しており、デジタルに特化しているわけではないため、戦略へ具体的に位置づけていないが、ロボットやAI、IoTの導入等については、工業技術研究所と連携して支援を実施中。

渡邊委員：工業技術研究所を活用している中小企業は多い。単なる相談だけでなく、その知見や技術を自社内に持ち込みたいとなると、人材育成と結びつきが強いのではないか。フィジカルAIの活用、ロボット連携の分野では、企業の実態を把握した上で取り組まなければ単なる学習で終わってしまう。これらを踏まえ、人材育成の連携強化も方策の一つではないか。

事務局：フィジカルAIについて、現在、工業技術研究所も交えてディスカッションしており、それを踏まえて来年度の事業展開を検討する。

渡邊委員：静岡県スタートアップ支援戦略2026（資料5）に「医療健康産業」とあるが、ここに「介護」も加えた方が良い。

事務局：すでに支援基盤がある等、静岡県の強みとなるジャンルに絞り、「医療健康産業」としている。広義には「介護」も含まれるている。

湯瀬委員：令和9年度の施策の方向性について、ネクストハイスクール構想との連携とあるが、浜松工業高校が先導校という認識で良いか。

高校教育課：ネクストハイスクール構想について、「浜松工業高校、焼津水産高校、沼津東高校、静岡中央高校」の4校で申請し、全て採択された。各々の特色を活かし、先導的に取り組み、波及効果を狙っていく。浜松工業高校は、専門高校の機能強化と高度化を目指し、地域とともに育ち地域を支えるスタートアップ人材の育成を掲げており、事業内容が合致している。新校舎の建設に合わせたハード面の整備とソフト面の両面から事業を考えている。

湯瀬委員：4校の中で浜松工業高校の役割が一番人材育成に寄与することが分かった。静岡県で4校が採択されるのは多いと思う。

高校教育課：2040年の高校のあり方や、全体の高校改革が求められており、先導校の取組を波及させていくために、本協議会や関係部局等と連携しながら進めていきたい。

池田委員長：デジタル人材育成の観点では、4校とも人材育成に関わっているので、絞り込むだけではバランスが悪い気がする。

鄭委員：中高年へのリテラシー教育や知識・経験を活用する方策が見えない点が気になる。日本が勝負できるのは物理界に近いフィジカルAIであり、その中でAIをどのように活用していくかが非常に重要。

（終了）